

新闻热点

にゅーすのことば
ニュースの言葉

「認知症」(痴呆病) 与失踪

にんちしょう ゆくえふめい
「認知症 と行方不明」

本刊以前就登载过几篇有关“认知症”(痴呆病)的文章。现在得了认知症的人因“四处游走”而导致“失踪”已成为一大社会问题。本期就让我们一起来了解一下该问题的现状及其相应措施。

“四处游走”是认知症的一种症状，当人的认知机能下降，就不能准确识别自己所在的位置和时间，进而迷失方向或陷入迷宫状态。

请看下面几种四处游走的类型：

- ・迷路（如：要去超市却不认识路了）
- ・想要回到另一个家（如：要回到搬家前的老房子去）
- ・试图恢复过去的生活模式（如：要到已经退休离职的公司去）
- ・想要找到属于自己的地方（如：已不认得家里人便去寻找有归属感的地方）
- ・想不起来自己为什么会在这里（即使是有目的而来，也不清楚自己为什么会在这里，便感到焦虑而离开）等等。

2023 年，全国因认知症或疑似认知症而“失踪”的人数总计超过 1 万 9000 人。其中 500 多人被发现时已死亡。这些失踪人数十年间里几乎翻了一番，创下历史新高。

日本已经进入了一个超老龄化社会，预计到 2025 年，认知症患者将达到 700 万人。据说这个数字到 2060 年还将会继续增长。

多数情况下，因认知症而失踪的人，若是没超过第二天的话还能活着被发现，但在第三天之后发现的话，生存几率将会急剧下降，因此及早发现至关重要。其死因顺序依次为溺水、失温、事故和疾病。为了避免这种最坏的

本誌でも「認知症」については、過去にも何度か記事にしてきました。今回は、現在社会問題化している、認知症になった人の「徘徊」から発生する「行方不明」の現状と対策について取り上げたいと思います。

認知症の症状である「徘徊」は、認知機能が低下すると自分がいる場所や時間の感覚が正確に認識できなくなり、道に迷ったり迷路状態に陥ったりして起こります。

徘徊のパターンを見てみますと、

- ・道に迷う（例：スーパーに行こうと思って道がわからなくなる）
- ・別の家に帰ろうとする（例：引っ越す前の家に帰ろうとする）
- ・過去の習慣を再現しようとする（例：退職した会社に行こうとする）
- ・自分の居場所を探そうとする（例：家族の顔が認識できなくなり自分の居場所を探しに行こうとする）
- ・なぜここにいるのかを思い出せない（目的があっても来た場所でも、自分がなぜそこにいるのかわからなくなり不安になってその場を離れる）などがあります。

2023 年、認知症やその疑いがあり「行方不明」になった人が全国で延べ 1 万 9000 人余りいました。このうち 500 人以上が亡くなって発見されたということです。この行方不明者数は 10 年で倍近くにもなり、過去最高の数となっています。

超高齢化社会を迎えている日本では、2025

情况发生,最近正在推进个人层面能做的事先准备,同时当地社区(地方政府)也在积极采取相应措施。

首先是在家中可以做到的事情。即便是疑诊患有认知症,如果让他(她)锁在屋子里,反倒会导致认知症的发展。那么就要在平时生活中多加小心,不要让它发展到“四处游走”的地步,并且还要注意预防因“四处游走”而“失踪”。

首先平时就要注意的是,

- 调整生活方式(有规律的饮食,保持起床、睡觉等生活节奏,不要忘记吃药)
- 适度的运动(消耗适量的能量,如白天出去散散步,以免体力过于旺盛)
- 舒缓精神上的压力(用平和的语气进行交流,避免生活环境有太多的变化或刺激,尽量多陪伴在他(她)身边共同度过时光,并通过轻柔触摸或抚摩身体的方式,让其感到生活有安全感)
- 营造一个有归属感的地方(营造出这样一种活动场所,即通过发挥自己的作用或爱好感受到自己存在的价值)



以下介绍的示例可作为“失踪”时的对策事先做好准备。

- 告知附近家人经常出入的商店等地方,以便让周围的人平时就能留心一下
- 在家门口处安装传感器,掌握家人的进出情况
- 随身携带写有姓名和联系方式的求助卡。将姓名标签粘贴或缝在衣服上
- 在智能手机上安装具有 GPS (位置信息功能) 的应用程序
- 在经常佩戴的帽子上、携带的包里或鞋子中装上一个小型 GPS 设备
- 在“どこシル留言板”上注册

年には認知症患者は 700 万人になると予想されています。そして、2060 年まではその数は増え続けるだろうと言われています。

認知症による行方不明者は、翌日までは生存して発見される例が多いですが、3 日目以降では生存する可能性は急激に低くなりますので、早期発見が肝心です。死亡原因の順位は、溺死、低体温症、事故、病气です。このような最悪の事態を避けるために、最近では個人でできる備えや、地域社会(自治体)での対策も進んでいます。

まず家庭内でできることですが、いくら認知症が疑われるからと言って家に閉じ込めてしまうと、むしろ認知症を進めてしまうことにもつながります。したがって、「徘徊」に至らないように日常的に気を付けることと、「徘徊」による「行方不明」に対する備えが必要になって来ます。

まず、普段から気を付けることとしては、生活習慣を整える(規則正しい食事、起床・就寝などの生活リズムを崩さないようにし、薬の飲み忘れのないようにする)適度な運動(日中に軽い散歩などで適度なエネルギー消費を行い、体力

があり余らないようにする)精神的ストレスを和らげる(生活環境の変化や刺激があまりないように、穏やかな声でコミュニケーションを行い、共に過ごす時間や手の触れ合いなどで安心感のある生活を心がける)居場所を作る(自分の役割や趣味を通じて自分の存在を感じられる活動場所を作る)

次に「行方不明」対策として準備できることの例を以下にご紹介します。

- 家族がよく出入りする隣近所のお店などに挨

在这里注册后，就可以事先得到一张 QR（二维码）贴纸。这张 QR 贴纸既有防水功能又可在黑暗中发光。如果事先把它粘贴在担心会走失的人的衣服或随身物品上，周围的人看见有人好像是在四处游走时，就可以读取二维码来(在网页的留言版上)了解失踪者的特征以及失踪的日期、时间和地点。并通过电子邮件通知家属，这样家属就可以在留言版上了解发现失踪者的位置、健康状况等信息。相当多的地方政府和其他组织已经采用了该系统。

尽管我们做到了上述所说的各种准备，但万一发生了家人失踪的情况，务必第一时间①报警请求搜索，②向区域综合中心咨询。目前全国 70%以上的地方政府已经建立了快速开始寻找失踪人员的系统※。

※SOS 网络(SOS ネットワーク)：地方政府与管辖范围内的护理福利单位和其它有关部门合作，向日间服务机构、护理经理和护理员等相关人士迅速传播信息的系统。

还有，全国各地越来越多的地方政府已经引入了这个系统，对有可能因游走而失踪的认知症患者进行预先登记。此外，在厚生劳动省的网页上开设了全国性的“有关身份不明的认知症老年人等的特设网站★”，可在该网站上查询各地方政府区域的身份不明人士(包括认知症以外的身份不明人员)的信息。

总之，对待认知症患者失踪这一现象及早发现是极为重要的，如果您有担心的家人，就去查看一下您居住地的政府部门(市区町村)网页里的认知症“SOS 网络”上的详细情况吧。➡➡



- ・ 扨さつしておき、日頃ひごろから気にかけてもらえるようにする
- ・ 玄関げんかんに人の出入りひと でいをキャッチするセンサーきゃっち せんさーを付ける
- ・ 名前なまえ、連絡先れんらくさきを書いたヘルプカードか へる ぶかーどを持ち歩も あるかせる。衣服いふくに名札なふだを貼はる、縫ぬい付つける
- ・ スマホすまほに G P S (位置情報機能いちじょうほうきのう) 付きアプリつき あぷりをインストールいんすとーるしておく
- ・ いつも身みに着つける帽子ぼうしやカバンかばん、靴くつの中なかに小型こがたの GPS を付けておく
- ・ 「どこシル伝言版しるでんごんばん」に登録とうろくする
自治体じちたいに登録とうろくすると事前じぜんに Q R シールきゅーあーるしーるが配布はいふされる。その QR シールしーるは水みずにも強つよく暗くらいところでも光ひかるようにできている。これを本人ほんにんの服ふくや持ち物ものに貼はっておくと、周囲しゅういの人が徘徊はいかいしていそうな人ひとを見かけみけた時とき、その QR コードこーどを読み取よとることで行方不明者とくちょうの特徴とくちょうや行方不明とくちょうになった日時にちじや場所ばしょが表ひょう示じされ、家族かぞくに発見場所はっけんばしょや健康状態けんこうじょうたいなどをメールめーるで知らせしることができる。自治体じちたいなどで採用さいようしているところもかなりある。

以上いじょうのように準備じゆんびしておけることはいろいろありますが、万が一まん いち、家族かぞくが行方不明とくちょうとなった場合は、まず①警察けいさつに搜索そうさく願ねがいを出だす、②地域ちいきほう包括支援センターかつしえんせんたーに相談そうだんすることが大事だいじです。現在げんざい、7割なな割の自治体じちたいで行方不明者とくちょうを素早すばやく探さがし始めはじめられる体制たいせいを整ととのえています。(「認知症見守り・SOS ネットワーク※」)

※SOS ネットワーク：自治体じちたいが管轄内かんかつないの介護かいごや福祉ふくし等の関係機関かんけいきかんと連携れんけいし、デイサービスでいサービスやケアマネージャーケアマネージャー、ヘルパーヘルパー等の関係者かんけいしゃに素早すばやく情報じょうほうが広がる仕組みしくみ

また、全国ぜんこくで徘徊はいかいで行方不明とくちょうになる可能性かんのせいのある認知症患者にんちしやうびやうを事前じぜんに登録とうろくしておく仕組みしくみを導どう

(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000052978.html>)

厚生労働省 (Ministry of Health, Labour and Welfare)

ホーム

Google カスタム検索

テーマ別に探す 報道・広報 政策について 厚生労働省について 統計情報・白書 所管の法

ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 認知症施策 > 行方のわからない認知症高齢者

行方のわからない認知症高齢者等をお探しの方へ

(身元不明の認知症高齢者等に関する特設サイト)

行方不明となった認知症高齢者等が、身元が不明のまま、各市町村において保護されている場合があります。

一部の地方自治体では、その捜索活動に資するよう、こうした身元不明の方の情報をホームページ上で公開し、掲載情報についての問合せへの回答や心当たりがある方からの問い合わせへの対応などが行われていますので、厚生労働省でも、都道府県単位を越えた捜索活動に資するよう、情報公開を行っている地方自治体のホームページへのリンクの一覧を設けました。

(※都道府県名をクリックすると、ホームページ上で情報公開を行っている地方自治体の関連ページにつながります。)

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県
- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

にゅう 入 している自治体も 増えて います。この他、厚 せいろうどうしょう ほーむぺーじ ぜんこく みもとふ 生労働省のホームページでは全国の「身元不 かいせつ かん とくせつさいと 明の認知症高齢者等に関する特設サイト★」 を開設し、各自自治体内の身元不明者（認知症以外 がい じょうほう こうかい の身元不明者を含む）の情報を公開して います。(左欄参照)

とにか、認知症の行方不明は とうきはつけん 早期発見が じゅうよう みな しんぱい ば 重要 ですので、皆さんも心配な家族がいる場 合、住んでいる市区町村のホームページの認 知症の「SOS ネットワーク」がどうなっている かを調べてみてください。(B)